

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

川尻中学校区 26 呉市立川尻小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	基礎学力の定着を図る	○主体的な学びへの授業改善	○96%の児童がめあてや疑問をもって学習に取り組んでいることから、児童の問いを生かした授業づくりは、児童の学びへの意欲を向上させていると考える。 ○学力補充や読解プリントに取り組むことで、学期末テストの3、4年生の正答率の平均が上がった。 ●学期末テストの正答率の平均は、2年生と6年生が国語科、算数科ともに目標値を下回っていた。学力の定着、向上に課題のある児童が多い。	・児童の問いを生かした授業づくりを続けていく。 ・「自分の言葉で考えたことをまとめている」児童を肯定的に評価する。 ・課題のある学年に対しては、複数体制による指導を充実させる。 ・2年生と6年生は文章読解プリント(15枚)に取り組ませる。 ・かがやきタイムでキュビナに取り組み、学力の定着を図る。
		○家庭学習の習慣化	○宿題提出率、自主学習提出率ともにどの学年も目標を達成している。	・毎日課題の提出状況や学習状況を確認し、未提出の児童には学校でやりきらせることをすべての学級で行う。
豊かな心	自己指導能力を育成する	○生活規律の定着(自律)	○高学年を中心に私語が減った。また、強化週間を設けたことで意識が高まった。	・高学年が手本となって、低学年に掃除の仕方を示す。教職員は児童に声掛けや掃除の仕方等の指導を行う。
		○夢や目標の設定	○児童自身で設定した目標と生活目標をふり返ることを通して、目標を意識して生活する児童が増えた。	・教師の声掛けや「評価の見える化」を引き続き行う。
		○自尊感情の向上(貢献)	○児童が活動の呼びかけや説明を行うなど、児童の主体性を重視した。 ●取組は行ったが、児童が自ら進んで取り組んだという意識にならなかった。	・児童会を中心にしたボランティア活動に取り組ませ、児童の主体性を重んじる。 ・ボランティア活動の呼びかけを校内放送で行う。
たくましい体	健康的な生活習慣の確立と体力の向上を図る	○体力の向上	○握力の高めるための取組(グーパー運動・牛乳パックをきれいにたたむ)の効果で、ほとんどの学年で数値が上がった。 ●くれチャレンジマツスタジアムに対して、児童への意欲付けを行うとともに、1年間を計画的に取り組んでいく必要がある。	・握力が高めるための取組を行う。 ・マラソン大会では、意欲を高める取組(がんばりカード)を行う。
		○食育の推進	○正しく食器を置く、あいさつをする、返却する食器にご飯粒等を残さないは身につけている。 ○正しくはしを使うはほぼ身につけている。 ●正しい姿勢で食べるについては課題が多い。	・給食の時間に食事の時の正しい姿勢についての指導を行う。 ・給食委員会が全校児童に呼びかける。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○児童生徒と向き合う時間の確保	○教科指導の準備や処理、生徒指導対応など、児童と向き合う時間がもてていると感じている教職員が多い。	・校務や行事の精選、会議等の効率化を進める。 ・チームで業務にあたることを推進し、一人一人の負担を軽減する。
		○長時間勤務の削減	○教職員は長時間勤務の削減に向けて十分努力している。 ●業務の持ち越しや持ち帰りがある。	・業務の持ち越しや持ち帰りの削減に向けた取組をもつ。

